

## 第 1 回二州地区高校教育懇談会 議事録

- 日時 平成22年 1月20日(水) 15:30~17:30
- 会場 敦賀市立図書館 3階 研修室
- 出席者 出席者：敦賀商工会議所室副会頭、敦賀市農業協同組合高岸専務理事、美浜町漁業協同組合高橋組合長、日本原子力発電(株)敦賀地区本部加藤本部長、県連合婦人会吉田理事、県定通教育振興会連合会山本委員、敦賀高校同窓会橋本会長、美方高校同窓会石丸会長、敦賀工業高校同窓会浜野会長、敦賀高校PTA橋本会長、美方高校PTA山崎会長、敦賀工業高校PTA中西会長、敦賀気比高校菊崎校長、栗野中学校山本教頭、美浜中学校柴田教頭、三方中学校水野教頭、敦賀市学校教育課中野課長、美浜町学校教育課野原課長補佐、若狭町教育委員会谷口局長補佐、敦賀高校八田校長、美方高校上田校長、敦賀工業高校松原校長(22名)
- オブザーバー：福井県教育委員会 津田委員
- 事務局 広部教育長、松田企画幹(学校教育)、東村教育政策課長、古谷高校教育課参事

## ○開 会

教育政策課長 それでは、ただ今から「二州地区高校教育懇談会」を開催いたします。皆様方には、お忙しい中、急なお願いにもかかわらず御出席いただき、誠にありがとうございます。

開会に当たりまして、広部教育長が御挨拶申し上げます。

## ○教育長あいさつ

広部教育長 皆様方には、1月の忙しい時期に大変御無理を申し上げまして、会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。御承知かと思いますが、私どもは、昨年の3月末に県全体の再編整備計画をまとめあげまして、順次、各地区において、各界各層の皆さん方の御意見をいただくため、懇談会を開催しております。

本県の中学3年生の数がピークだったのが平成元年でございましたが、昨年生まれた子どもたちが高校へ入る平成36年には、ピーク時と比べてほぼ半減をするということです。高校への進学だけではなく、今後は、産業界をはじめいろんなところに波及してくると思われまます。そういったことで、私どもは、将来の高校生たちが、より良い高校教育をより良い環境の中で受けるにはどうしたらよいか、これを視点に考えておりまして、県立高校の再編整備計画を定めた次第でございます。

とりわけ、奥越地区において生徒数の落込みが激しくなっておりますので、奥越地区については、検討というよりも実施をしていく必要にせまられており、実施計画を策定しております。奥越地区については、県内のモデルとなるよう高校再編を進めているわけでございます。

次に続きますのが、坂井地区、若狭地区、それから二州地区でございます。坂井地区と若狭地区につきましても、これまで懇談会を各2回ずつ開きまして、各界各層の代表の皆さん方から御意見等を伺っております。なお、若狭地区につきましても、非常に長い伝統を誇る小浜水産高等学校をどうするかという課題がございまして、それが非常に大きな焦点になっているわけです。

敦賀市をはじめとする二州地区につきましても、今回初めてこういった会合を持たせていただくわけでございます。本日、学校も含めまして、各界各層の代表

の方においでいただいております、忌憚のない御意見をお伺いしたいと思います。

御承知のように、二州地区には、県立高校が3校設置されております。まず、敦賀高校につきましては、明治39年に開校した敦賀商業学校に始まりまして、敦賀商業学校・敦賀高等女学校・敦賀中学校の3校の合併を経て、平成18年には創立100周年を迎えたところでございます。また、敦賀工業高等学校は昭和37年に開校しまして、これまで嶺南地域における中堅技術者の育成に努めておりまして、卒業生は、地元産業界をはじめ、全国各地で素晴らしい活躍をしているわけでございます。それから美方高校につきましては、昭和44年の開校当時から地元の方々に支えられて発展し、平成16年度から地元中学校との間で、福井型といいますか、連携型の中高一貫教育の研究・試行が始まりまして、その翌年度から本格的に中高一貫教育が実施されております。この中高一貫につきましては、県内ではこの美方高校、それから丹生高校、金津高校の3校で進めているわけでございます。

このように、それぞれの県立高校は、独自の輝かしい歴史と伝統を有しており、地元の方々の各高校への熱い思いもあることも十分承知いたしております。再編整備には、時には痛みを伴うことがあると思いますが、私たちがまず考えなければならないことは、先ほども申し上げましたが、高等学校で学ぶ子どもたちが、より良い環境で、より良い高校教育を受けるにはどうしたらよいか、まずはこういったことを視点にお考えいただきたいと思っております。

特に二州地区におきましては、近年、優秀な生徒が福井の方へ流れていることが非常に大きな課題として私どもは捉えております。もちろん、敦賀高校や敦賀気比高校の教職員の皆さんは非常に努力をされているわけでございますが、組織的に学校をどうするかということも、この先考えていく必要があるわけございまして、この高校再編という節目を迎えて、そういったことも併せてお考えいただければと思っておりますので、よろしく御議論いただきますようお願いいたします。

### ○出席者紹介

教育政策課長

それでは、本日御出席の皆様を御紹介いたします。私の方から見て左側の方から御紹介します。

敦賀工業高校校長の松原様です。

美方高校校長の上田様です。

三方中学校教頭の水野様です。

美浜中学校教頭の柴田様です。

栗野中学校教頭の山本様です。

若狭町河合教育長の代理で教育委員会事務局の谷口様です。

美浜町大同教育長の代理で野原様です。

敦賀市下野教育長の代理で中野様です。

県定通教育振興会連合会の委員をお願いしております山本様です。

敦賀市農業協同組合田波組合長の代理で高岸様です。

美浜町漁業協同組合長で県漁連会長の高橋様です。

敦賀商工会議所副会頭の室様です。

日本原子力発電株式会社常務取締役 敦賀地区本部長の加藤様です。

県連合婦人会理事の吉田様です。

敦賀高校同窓会長の橋本様です。

美方高校同窓会長の石丸様です。

敦賀工業高校同窓会長の浜野様です。

敦賀高校PTA会長の橋本様です。

美方高校PTA会長の山崎様です。

敦賀工業高校PTA会長の中西様です。  
敦賀気比高校校長の菊崎様です。  
敦賀高校校長の八田様です。  
また、オブザーバーとして、県教育委員の津田委員に出席いただいております。  
また、河瀬敦賀市長には、所用のため、御欠席という御連絡をいただいております。  
続きまして、事務局を紹介いたします。  
学校教育担当企画幹の松田でございます。  
高校教育課参事の古谷でございます。  
私、教育政策課長の東村でございます。よろしくお願いいたします。

### ○事務局説明

教育政策課長

それでは、議事に移らせていただきます。まず、資料の確認をさせていただきます。次第、会場配置図、出席者名簿とございまして、資料1「二州地区の県立高校の現状等について」、資料2「県立高等学校再編整備計画」、それから二州地区の各県立高校、敦賀気比高校に関する資料がお手元にあると思いますので、よろしく願いいたします。御確認いただきたいと思っております。

それでは御説明させていただきます。資料1をお開きください。

1 ページを御覧ください。県立高校再編整備に関するこれまでの経緯が記載してあります。まず、高等学校教育問題協議会、いわゆる高問協が平成19年から20年にかけて8回開催されました。ここで、「職業系専門学科の在り方」、「定時制・通信制課程の在り方」、「適正な学校規模・配置」についての協議がなされております。平成20年10月の高問協答申におきまして、職業系専門学科の在り方につきましては、まず、特定の専門分野に特化した拠点校を設置すること、2番目に、幅広い専門分野を学べる総合産業高校等を設置すること、3番目に、ものづくり・食育など本県の特色を生かした新しい学科の設置等が提言されております。定時制・通信制課程の在り方につきましては、不登校経験者など様々な課題を抱える生徒が増加しているという現状を踏まえて、昼間二部制の見直し、単位制・2学期制の導入、教育相談体制等の充実が提言されました。単位制・2学期制の導入につきましては、本年4月から導入されることになっております。それから学校規模・配置の在り方につきましては、1学級当たりの望ましい生徒数は36人程度とすること、職業系専門学科や定時制課程については柔軟に対応すること、1学年当たりの望ましい学級数は4～8学級程度を適正規模とし、再編整備に当たっては少なくとも5～6学級を確保したいということが述べられております。

その後「新しい県立高校の在り方検討会」が設置され、検討を加えまして、「県立高等学校再編整備計画案」が公表されております。この中の第1次計画では、21年から23年度にかけて、23年4月の総合産業高校開校を含む奥越地区の再編を行うこと、定時制・通信制課程の見直しについては4月から見直しをするということがうたわれております。また、第2次実施計画といたしまして、平成22年度から25年度にかけて、福井・坂井地区と嶺南地区の再編を行うこと、第3次計画としまして、23年度から26年度にかけて丹南地区の再編を行うということがうたわれております。その後、パブリックコメントを実施いたしまして、平成21年3月30日、教育委員会において県立高等学校再編整備計画を決定しております。二州地区に関係する内容について申し上げますと、まず第2次実施計画において嶺南地区の再編整備を実施すること、中学校卒業生数は今後さらなる減少が予想されるため、1学年3学級以下の小規模校がある地区から順次再編整備を行うこととしております。それから、二州地区には

敦賀工業高校がございますが、工業系の専門学科を設置している6校については、地域の実情等を考慮しながら、工業教育のセンター的役割を果たす拠点校の配置や、近隣の職業系専門学科を持つ高校との統合による総合産業高校の設置を検討する。商業科につきましては、工業科と同様、現在商業系専門学科を設置している6校について、地域の実情等を考慮しながら、商業教育のセンター的役割を果たす拠点校の配置、あるいは近隣の職業系専門学科を持つ高校との統合による総合産業高校の設置を検討する。また、家庭科につきましては、総合学科の一系列や、高校における自由選択科目として家庭に関する科目を設置するとともに、地域によっては、食育など本県の特色を生かした学習や、福祉分野等も併せた幅広い学習を行う教育体制を整備することが計画にうたわれております。

ここで、資料2を御覧いただきたいと思っております。2ページに「総合産業高校の設置」ということが記載されております。既存の職業系専門学科を持つ県立高校の再編統合により複数の異なる職業系専門学科を併設する総合産業高校を設置する。総合産業高校は職業系高校として各専門学科の専門性の確保を図り、それぞれの専門分野を究めることを前提に地域の産業の将来を担い、地域に根ざす人材の育成を図るための学科を構成する。生徒の多様な学習ニーズに対応するため、特定の学科に所属しながら、一定の範囲内で他の専門学科の科目も選択して学習することができる「総合選択制」を導入する。

3ページを御覧ください。総合選択制といいますのは、生徒が3年間で学習する教科・科目につきましては、普通教科、専門教科、選択教科・科目に分けます。一般の職業系の単科高校でありますと、選択教科・科目というのではなく、普通教科と専門教科で専門性を深めていくということでございます。総合選択制を取り入れることで、例えば途中で、工業系に入ったけれども、商業あるいは農業等を学びたいということであれば、選択科目で用意されている他の学科の専門科目を履修することができる、あるいは進学を希望するということであれば、進学に有利な英語や数学などの科目を選んで履修することができるというのが総合選択制でございます。

それから、第2次実施計画に二州地区の再編整備が含まれるということでございますが、まず10ページを御覧いただきたいと思っております。再編整備計画の第2章、第1次実施計画として、奥越地区の再編整備をうたっております。具体的には11ページを御覧ください。現在、大野東高校に工業系と福祉系学科があり、勝山南高校に商業系と家庭系学科がありますが、これを工業系の機械科と電気科、商業系の総合ビジネス科、家庭・福祉系の生活福祉科、こういう4つの科を有する総合産業高校を設置していくことをうたっているわけでございます。

13ページを御覧ください。大野東高校、勝山南高校が、23年度には総合産業高校に再編整備されるということが盛り込まれており、これが実施計画であるということで御理解いただきたいと思っております。

それでは、資料1に戻っていただきます。二州地区の現況について若干御説明をさせていただきます。

2ページを御覧ください。先ほど教育長の方からも生徒数の減少が著しいという話がありましたが、数字を迫りかけてみたいと思っております。一番左側に平成7年3月という欄があります。二州地区におきましては、昭和63年に敦賀高校に情報経理科ができております。平成4年に美方高校家庭科の学科改編を実施して3科を2学科にしております。平成7年度に敦賀工業高校の学科改編を実施しまして、これ以降現在の体制が継続されているということで、平成7年3月を基準にいたしました。敦賀市の欄を御覧ください。昨年の3月に中学校を卒業された方は666人いたわけです。現在の中学3年生は30人程度増えております。これ

に应じまして、今年4月の入学定員は若干1クラスほど増えるのではないかと思います。その後、70人強、80人強減少に転じて612人という数字になります。これが平成33年3月には613人という姿になってくるわけです。平成35年はまた少し増えるといったように、若干上下しながら減少していくというのが敦賀市の姿かなと思っております。右側の欄外に参考として書いてありますが、生徒数が一番多かった平成元年3月の卒業生数です。このときは敦賀市で1,049人いたということでございます。美浜町を御覧いただきますと、平成7年3月は177人、これがミニマムになりますのが平成33年3月ということで、半分以下に減少してしまうという状況でございます。若狭町で申し上げますと、平成7年3月が234人で、平成32年に122人ということになり、半数近くに減少してしまうという状況があるわけでございます。

3ページを御覧ください。県立高校定員数の推移でございます。現体制になった平成7年には、敦賀高校11クラス、美方高校6クラス、敦賀工業高校4クラスと、3校21クラスでした。平成21年には、敦賀高校8クラス、美方高校5クラス、敦賀工業高校4クラス、計17クラスということで、4クラス減少しております。また、平成33年には3クラス以上減少し、13～14クラスとなることが予想されます。平均すると、各学校において5クラスの維持が非常に厳しくなるという状況でございます。また、参考として、平成22年4月の定員数が記載してあります。その横に志望者数とございますのは、昨年の9月1日に中学3年生から進路志望をとった数字が出ておりまして、美方高校普通科で若干1名下回っておりますが、ほぼ全ての高校で定員数を上回る志望者数があるという状況です。

4ページを御覧ください。各地区の県立高校募集定員の状況ということで、普通系と職業系に分けて、平成22年度の定員数を分析したものでございます。二州地区につきましては、県立高校の普通系は323人、職業系が302人、合計625人という状況でございまして、県立高校だけを申し上げますと、普通系が51.7%、職業系が48.3%となっています。敦賀気比高校を入れますと、普通系で64.7%、職業系で35.3%となり、嶺北の平均を少し下回るという形になります。嶺南地区については、若狭地区の職業系の比率が非常に高くなっているという状況があります。また奥越地区については、今回の再編により、若干普通系の方にシフトするのと考えております。福井・坂井地区につきましても、私立を加えますと、普通系が約68%となり、若干高くなるということになります。

5ページを御覧ください。中学校からの高校への進学状況でございます。敦賀市を例にとって御説明いたします。平成21年においては、敦賀市から敦賀高校の全日制に入学された方が266人、定時制が19人、敦賀工業高校へ102人、美方高校に20人、合計407人。それから気比高校に138人進学しております。それから若狭地区にも、小浜水産高校に2人、若狭東高校に3人、合計5人進学されています。また嶺北の県立高校にも49人進学されており、主に藤島、高志、武生高校が主だと思われま。それから私立高校に8人、県外進学が6人という状況でございます。また、鯖江市内の国立高専にも10名強進学されております。ということは、単純に計算しましても、敦賀市から約60名の方が嶺北の方に進学されているという状況でございます。

6ページを御覧ください。各高等学校の卒業者の進路状況でございます。敦賀高校については、普通系と商業系に別れておりまして、普通系の21年を御覧いただきますと、9月の進路志望調査、定員数、入学者数、3月に卒業された生徒さんの数を記載しております。21年3月に卒業された生徒さんが223人いらっしゃいまして、進学が197人、就職が16人、その他10人ということにな

っております。また大学の内訳としては、県内大学が25人、県外が128人。同じく商業系の平成21年の計を見ますと、卒業生が112人、進学が49人、就職が62人。就職の地区別を見ますと、県内に就職された方が53人、県外が9人という状況でございます。普通科はほとんどが進学をされる、進学先は8割が県外です。県外が非常に多いというのは嶺南共通の特徴かなと思っております。また商業科につきましては、5割強が就職され、約85%が県内に就職をされています。

7ページを御覧ください。美方高校でございますが、普通科の21年の欄を見ますと、卒業生114人のうち進学が106人、県内大学が14人、県外大学58人という状況でございます。また家庭科の合計欄を御覧いただきますと、卒業生71人のうち、36人が進学、35人が就職ということで、地区別では、県内が25人、県外が10人。美方高校につきましても、普通科につきましても、ほとんどが進学をされておまして、そのうち7割が4年生大学に進学しており、8割が県外に進学をされています。家庭科につきましても半数が就職、県外への就職をされる方も3割程度いらっしゃるという状況でございます。

8ページを御覧ください。敦賀工業高校です。一番下の合計欄を御覧いただきたいと思いますが、平成21年卒業生数122人のうち、進学が40人、就職が78人。就職先を地区別でみると、県内が33人、県外が45人ということでございます。約7割が就職されており、21年度は、県外へ就職される比率が県内を超えている状況でございます。就職の業種別としては、製造業が多いということで、学んだ学科と関連の深いところへ就職されている状況かなと思っております。

9ページを御覧ください。県内の事業所・従業者数調でございます。18年10月現在の状況を記載していますので、参考に御覧いただきたいと思っております。以上で説明を終わります。

### ○各高等学校長説明

教育政策課長

続きまして、この懇談会には、二州地区の県立高校、私立高校の校長先生方に御出席いただいておりますので、それぞれの高校の現状と課題につきまして、各校長先生から御説明をいただきたいと思っております。それでは、敦賀高校からお願いいたします。

八田校長

よろしく申し上げます。お手元の「飛躍」という赤いリーフレットに基づいて説明させていただきたいと思っております。本校の校訓と教育目標が載っております。校訓が「自主自律」、教育目標は5つの柱で成り立っております。特に、文武両道を目指す高校として多くの成果を挙げ、今日に至っているところでございます。先ほどもお話がありましたが、本校は平成18年に創立100周年を迎えた伝統校でございます。卒業生の数は、今年の5月現在で33,087人にのびります。学校規模でございますが、全日制が、普通科599人、商業科は商業と情報経理の2つ併せて313人。それから定時制が1年から4年全部で58人おりますので、総合計970人という大きな学校でございます。

本校では、一人ひとりの生徒の多様な進路希望に応えるために様々な取り組みを行っております。まず普通科でございますが、学力向上と進路実現を目指して、クラス編成に工夫を凝らしております。1年生は習熟度の高いF1クラスと一般のF2クラスに分けて、きめ細かな配慮のもとに教科指導を行っております。特にF2クラスは、数学と英語の少人数のクラスを作りまして、十分に教師の目が届くように配慮しております。2、3学年になりますと、文理混合で特別進学クラスを1つ作り、難関大学に対応できるようなクラス編成にしております。

商業科、情報経理科は、資格取得に力を入れるということで、少人数クラスと

T・T、ティームティーチングといいまして、1つのクラスに教師が2人入る体制などを敷いておりまして、検定試験にもたくさんの合格者を出しています。そうした資格取得を武器に、商業科、情報経理科からも国公立大学に合格できるように、特に推薦入試を活用した指導を行っておりまして、昨年度は、商業科から県立大学に2名合格しております。

また、授業や進路指導等にも様々な工夫を凝らしておりまして、長期休業中の課外はもちろんですが、土曜日にセミナーを行ったり、朝課外、8限目の課外、大体考えられるあらゆるものを駆使して、学力を付ける努力をしております。

また、特色ある学校づくりとしまして、商業科3年の授業で「マーケティング」がありますが、敦賀市内で開催される各種催しに出店して、仕入れから販売に至る体験を通して学習する活動をしておりまして、商工会議所や各商店街の皆さんと信頼関係を築きながら活動を行っております。さらに3月には、気比の松原の清掃、また敦賀まつりにも参加しており、地域に愛される学校づくりも同時に行っているわけでございます。

こうした地道な努力の結果、昨年は約80名が就職をしましたが、100%の就職率となりました。今年も56名が就職を果たし、希望者は全員就職ということになっております。それから進学でございますが、昨年度は76名が国公立大学に合格しております。京都大学にも2年連続で合格者を出し、健闘しているところでございます。私立大学には219名合格しております。例年、本校では専門学校を含めて大体7割が進学しております。

また商業科の検定試験でございますが、一人でいくつ1級に合格するか、これがひとつのバロメーターになっています。一人で3つ以上の1級の資格を取ることを三冠といいます。昨年度は三冠以上取得している生徒が63人おりました。これは福井商業高校に次いで第2位でございます。一昨年度には八冠の生徒、一人で1級を8個持っているという生徒が出まして、大変話題にもなりましたが、商業科は健闘しているということが言えるかと思えます。

定時制については、各学年1クラスずつの構成で、全体で58名の生徒が在籍しております。学校生活は授業前の給食から始まります。実に家庭的な雰囲気をもっておりまして、本校の生徒は8割がなんらかの仕事をしながら学んでおります。中学校時代に不登校気味であったけれども、定時制に入学してからは1日も休まず登校しているという生徒が何人もおりまして、成果を挙げているのではないかと思います。

以上のように、嶺南の県立高校としまして、人間教育と学力向上を両輪として成果を挙げていると言えらると思えます。

最後に、課題を1点申し上げます。先ほど教育長からもお話がございましたが、敦賀から嶺北の県立の進学校へかなりの生徒が進学しているという現実がございます。昨年は武生高校をはじめとしまして、40人以上の生徒が嶺北の進学校へ進んでいます。本校では、当然こういうことも意識をしておりまして、中学3年生に本校を受験していただきたいということで、クラス編成の工夫や教員の研修等を通して、難関大学に合格できる体制の整備を行ったり、「サイエンスパートナーシッププロジェクト」という国の事業の指定を受けるなど、理数の好きな生徒を本校に引き寄せるために、様々な工夫をして魅力を引き出す努力をしています。現段階ですが、昨年より少し流出が減ったかなという感触を得ています。今後も更なる魅力を出し、敦賀高校、二州地区の学校に振り向いてもらえるように頑張りたいと思えます。

できれば、平成6年を最後に途絶えている東京大学に合格者を出して、国公立大学に3桁の合格者が出るような、そういう目標を立てる中で、嶺北に負けない高校にしたいと考え、いろいろ工夫をしております。今後とも皆様方の御支援を

お願いしたいと思います。以上です。

上田校長

先ほど教育長から、学校の紹介をしていただきましたが、美方高校は、昨年度創立40周年を迎え、41年目を迎えている中規模校です。現在、在籍生徒516名で運営を行っております。資料でございますが、2つ用意をさせていただきました。ひとつは学校案内「夢づくり 人づくり」、もうひとつは学校説明会の資料でございます。

本校は、1学年当たり、普通科3クラス、家庭学科2クラスの計5クラスです。家庭学科2クラスと申しますのは、生活情報科と食物科です。

学校説明資料の6ページを御覧いただきたいと思っております。生活情報科でございます。被服製作で非常に頑張っている学科でございます。生徒の礼儀作法が非常に行き届いておりまして、私も8年ぶりに学校に戻りましたが、スリッパをきちんと並べている姿を見たときに、本当に学校が変わってきたなという印象を受けました。先生方の資質が非常に上がってきているなというところがありました。生活情報科と申しますのは、ファッションや情報のスペシャリストを目指す学科でございます。非常に有効な多くの検定や資格が取得できる学科でございます。ただ、先ほどお話がありましたように、本校でも三冠、四冠というのを目指していますが、三冠までは至っていないのが現状でございます。今年は、なんとか三冠を目指したいということで、教職員一丸となって頑張っています。

9ページを御覧ください。食物科でございます。県立高校で唯一、調理師養成施設として厚生労働大臣の指定を受けている学科でございます。嶺南各地から入っていただいております。非常に堪能な生徒も多く輩出しておりまして、有名なところに就職している生徒も多くございます。調理師養成施設として免許をとれるということでも頑張っている学科でございます。

校訓は、「明・強・清」でございます。明るく、強く、清らかにということをやっております。特にあいさつをしっかりとすること、それから文武両道で頑張っていこうということ、また、学校を清潔にしようということをやっております。本校に来ていただいた方はおわかりになるように、大変きれいな学校でございます。今日から清掃の強調週間ということで、非常に先生方が頑張って、朝20分間の清掃をやっている学校でございます。

文武両道で頑張っているということですが、一人ひとりの学力を高めるということと、それから「武」の方の中心は、やはり部活動と学校行事ではないかなと思います。部活動でございますが、ボート、剣道、それから陸上の方で今頑張っているところでございますので、御支援をお願いしたいと思います。

それから一昨年からですけれども、美浜・三方地域の連携クラスが入学をしてくれております。今、一期生が53名、二期生が52名の計105名が入ってきております。生徒一人ひとりに対してきめ細かい丁寧な指導をしております。来年は、1学年から3学年まで連携クラスの生徒が入ってくるようになっております。新たな進路実現を目指して、信頼できる学校にしていきたいと思っております。

進路状況ですが、学校説明資料の12ページを御覧いただきたいと思っております。昨年度は国公立大学の現役合格者が37名と、例年よりも多くなっております。それから何よりも、家庭学科の方から初めて合格者を出すことが出来ました。就職でございますが、昨年度は42名全員就職が決まり、そのうち3名が公務員試験に合格しました。本年度も40名のうち39名が決まっております。あとの1名は、はじめ大学にいきたいと言っていたのですが、急に変更したいという申し出がございました。何とか頑張って100%を目指したいと思っております。

また、過去10年間の難関大学現役合格者数をみますと、昨年も京都大学と大

阪大学、あるいは私学の有名校にも入っておりますので、健闘していると思っております。

それから美方高校の特徴でございますけれども、非常に大変ありがたいことなのですが、各地域に卒業生が沢山いらっしゃいます。その方々が理事になっていただいて、各地区に高校の後援会を組織していただいています。その方々から支援をいただいて、教育活動の方に活かさせていただいています。教育関係の事業や部活動の遠征等にも支援をいただいております、大変ありがたいシステムで、美方高校ならではのふうにも思っております。

また、美浜町の町技がボートでございますので、校内レガッタというのをさせていただいております。1年生2年生併せまして、1日かけてボートを体験することも行っているところでございます。

美方高校は、旧三方町を含む現在の若狭町、美浜町に大変支えられております。なんとか、地域の方々に信頼されるような学校を目指して頑張っているところでございます。信頼されるには、進学指導と部活指導で頑張っていかなければいけないということを改めて思っておりますので、今後とも、皆様方の御支援、御理解を賜りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

松原校長

それでは敦賀工業高校の概要について説明させていただきます。学校案内を御覧ください。

本校の設置学科は、電子機械科、電気科、情報ケミカル科、建築システム科の4科です。現在の生徒数は364名、うち50名が女生徒です。女生徒50名の内訳は、情報ケミカル科に38名、建築システム科に12名となっております。学校全体に落ち着きがありまして、月例集会で私が話をしても静かに聴いているという状況でございます。現在、特に2、3年生がしっかりしており、学校祭や生徒会活動なども生徒中心で頑張っております。教職員は全部で57名おり、平均年齢は約42歳です。各年代バランスの取れた構成になっております。実習助手や助手につきましても非常にバランスの取れた状態であります。

中学生の本校への志望状況ですが、毎年120名程度の希望者がありますが、今年度は185名となり、年々増えているという非常にありがたい状況になっております。

進路状況ですが、特に本年度を中心に話をさせていただきます。現在の卒業予定者は115名で、そのうち83名が就職希望です。全体の約72%であり昨年並みです。現在80名が内定しております。もともと、この地区には、関西電力、北陸電力、東洋紡といった大企業がございます。それに続く中小企業もございます。地元の就職には本当に恵まれている学校だと思っております。昨年の4月から企業訪問を行っておりますが、今年度は、製造業については厳しい状況でした。しかし、電力・エネルギー関係が例年並みということで、今年度電力・エネルギー関係に内定した生徒は46名、半数以上です。昨年は40名でした。就職した生徒はほとんどが地元で就職しています。先ほどの説明の中に県外に行く場合が結構あると言われましたが、会社の本社自体が県外にあるために、県外の数に入りますが、実際は、90数%が地元に残るという状況です。現在の2年生には、さらに就職希望者が増えており、現在103名です。学校としては、更なる進路指導にしっかり取り組んでいきたいと思っております。

進学については、現在26名が進学希望です。4年制大学に6名、専門学校に20名、これは全て合格しております。課外等が1年生のはじめから行われまして、毎年、福井大学等にも合格者を出しております。

学校目標は、あくまでも優れた工業技術者を育成するということで、授業を一番大事にしながら学校運営をしております。特に近年の取り組みといたしまして、

原子力エネルギーに関する教育推進事業というのがございます。これは国と県との事業であり、5年間継続で今年が3年目になります。本校が拠点校になっております。その狙いは、エネルギー危機が目前に迫っている現代におけるエネルギー生産現場での即戦力となる人材の育成ということで、学校は、この事業に中心となって進めています。内容を言いますと、原子力・エネルギーに関する授業の充実、原子力・エネルギーの人材育成セミナー、こうしたものを毎年7月頃に行っております。また、外部講師による出前授業や出張授業、講演会等も開いております。さらに、今年2月に原子力に関する資格取得の研修会を行います。また、原子力関係の関連施設の見学など、こうしたことを通じて原子力・エネルギーの授業を進めております。学校としては、国家資格の取得に相当頑張っております。今年度は、生徒1人が国家資格を1つ取得したという状況です。これも毎年少しずつ増えてきております。毎日朝課外を行いながら、生徒の実力をつけております。

部活動については、本校には運動部が11、文化部が9部あります。ボート部は美方高校が強いですけれども、本校のボート部も非常に頑張っております。昨年度はジュニア選手権まで駒を進めることができましたし、今年度も県の新人大会でダブルスカルの優勝や総合優勝、このように頑張っております。また、弓道部が、この間、東日本大会に出場しました。卓球部も頑張っております。また近年、文化部が非常によく頑張っております。また、ブラスバンド部が初めて県の大会で銀賞を獲りました。また、テレビや新聞等によく出ておりますが、電子機械部とか情報ケミカル部が、いわゆるおもちゃの病院やロボット教室、さらに保育所や小学校等でのイベント教室、そういうものを一所懸命やっております。また、学校での学習内容の発表ということで、2月6日に、プラザ萬象で課題研究発表会を行います。「活力・自律・進化」というのが本校の校訓になっております。本校では、こうした活動をしっかりと進めていきたいと思っております。

本校の課題といたしましては、地元の企業の即戦力となる生徒をさらに育てていきたいということです。現在、機械棟などが相当古くなってきておりまして、今後何とか新しいものに替えながら、生徒たちを育てていきたいと考えております。また今年度は、女生徒の就職が厳しい状況です。女生徒の就職に関して、今後どう対応していくかということも、これからの課題としてしっかりとらえていかなければいけないと思っております。今後とも、地元に着目した学校として、しっかり頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。以上です。

菊崎校長

それでは、学校案内と学校要覧を御覧ください。本校の概略を簡単に説明させていただきます。

本校は全日制普通科、男女共学校です。1学年の定員は230名で、附属中学校を併設しています。普通科のクラスの編成は、特別進学コースが2クラス、進学コースが2クラス、進学校コースの中には中国語専攻と美術専攻があります。そして教養コース3クラス。この教養コースでは、商業、情報工業、福祉を選択することができます。生徒の地区別の割合ですが、附属中から進学してくる生徒は二州地区ですので、二州地区の生徒が84%です。地区外の生徒は16%です。ちなみに県外からの生徒は9%です。進路状況は進学が75%です。内訳は、大学が44%、短大が13.5%、専門学校が17.5%であり、就職は25%となっています。

部活動は、全国大会への出場経験がある野球部、テニス部、レスリング、空手、剣道、陸上など運動部が12部あります。文化部は、吹奏楽、美術、書道、インターアクトなど15部があります。インターアクトクラブというのは、地

元のロータリークラブの方と連携しまして、合同奉仕という形で、生徒が夏休み等に東南アジアの方へ行って交流しています。

本校の特徴は、大学進学から、地元での就職まで、幅広い進路を目指す生徒が来ていることです。また、理数教育に力を入れておりまして、サイエンスパートナーシッププロジェクト事業に2つ取り組んでおります。福井大学と連携しまして、地質巡検ということで活断層や化石などについて研修を行っています。また、地元のアクアトムの職員の方の協力を得まして、「自然エネルギーの発電科学から考える地球での暮らし」という課題で事業に取り組んでいます。

今後さらに力を入れていきたいのは人間教育で、本校はJRCに加盟しています。また、地元のライオンズクラブが主となって道德教育をやっています。来年度からは本校のホームルームの中に取り入れて、道德教育を推進していきたいと考えています。

キャリア教育については、進路指導と一線を画しまして、生涯にわたっての職業教育という形で、来年度から一つの科目に取り入れまして取り組んでいくつもりでおります。

本校設立は今から24年前ですが、当時多くの生徒が地区外に通学するというので、それをなくそうということで本校ができたように聞いています。その中で公立か私立かということで、やはり公立と私立が競い合うのが良いということで、私立高校ができたと聞いています。24年の間に私どももその役割を果たしてきたと思いますが、最近の少子化や嶺北に生徒が流れる状況、昨今の不況のなかで、私学を取り巻く環境は非常に厳しい状況になっています。しかし、今、県立高校が再編する中で、嶺南地区の私立高校としてどう関わっていくのか、また地域にどう貢献していったら良いのか、これらについて、一度基本に戻り、今後の将来を見据えながらしっかりと考えていく、それが本校に課せられた大きな課題のひとつであると思っています。

教育政策課長                      それでは、5分間休憩をとらせていただきます。

<休 憩>

### ○意見交換

教育政策課長                      それでは、再開させていただきます。

広部教育長                      今日は最初ということで、各高等学校の現状や二州地区全体の現状について説明をいたしました。皆さんにおかれては、初めてお聞きになることも多かったかと思います。私どもなりに、これまでの経過を分析しますと、まず職業系高校については、県内の各産業界の代表の方々からいろいろ御意見をいただく場があるわけですが、職業系の高等学校から県内の企業に就職する子どもたちについて、辛らつな言葉で申し上げますと、今の職業系教育はなっていない、といった御指摘を受けるわけです。もっと即戦力になるような教育をしたらどうかという厳しい御意見を多々伺っているわけでございます。これは私どもの教育委員会の問題でございまして、先ほど指摘がありました機材の更新等も含めてどのように充実していくか。これが一つの大きな課題でございます。敦賀をはじめとした二州地区を展望させていただきますと、ただいまの説明の中から、ぼんやりと問題点が浮き上がってくるのではないかと思います。

敦賀工業高校につきましては、地区の工業系教育の中核であり、幸い各企業の皆様に十分御理解をいただきまして、非常に就職について頑張っております、いわば県内有数の工業系の高等学校として位置付けをいたしております。

問題点は、この地区から嶺北へ優秀な子どもが流れていくということです。それがなぜ駄目なのかというお考えもあると思いますが、やはり二州地区の子どもはこの地区でしっかりと育てるということも大切です。希望する大学等へ行かせる力、ひとつの文化でもあると思いますが、こういったことが必要ではなかろうかと思います。今のままで行きますと、どんどん嶺北の高校に流れる傾向が強まると思われま。私どもが懸念しておりますのは、二州地区はこうした傾向が強いわけ。これをいかに食い止めて、敦賀気比も含めて、普通高校をいかに強化していくかということも大きな課題として浮かんでくるわけ。です。

今日は最初ということで、なかなか御発言しにくい面もあろうかと思いますが、私どもや学校に対する質問等でも結構ですので、御発言いただけたらと思います。

室副会頭

西川知事が二期目の当選をされたときに、是非、高校の再編成をお願いしなすと申し上げました。その時の教育長も同席しておられましたけれども、今日この会議を持っていただいたということで、非常に感謝いたしております。ただ、一番問題になるのは嶺南だと思います何故、勝山や大野、坂井郡を先にやって、嶺南という順序なのか。また小浜で先にやって敦賀は後になるというようなことは、私としては不満でございます。嶺南が一番問題だというならば、まず敦賀を先にやって、若狭地区を後でやるのが順序だと私は思います。

私は、県や市の審議会へも出ていますが。意見を聞いたということのプロセスの一つの手段として、後は役所の原案どおり物事を決めるということがあります。これは、国の審議会も同じでございます。そして議会で問題になったときに、審議会で審議したからということで、何か議会を通すための手段として、我々の意見を聞いているのが今日の行政の一つのやり方だと思います。嶺南の再編案があるのならば、例えば、敦賀工業高校と敦賀高校の商業科を合併するとか、そういう案があるのならば、最初にたたき台を御提出いただいて、我々敦賀に住む者にこれはいかなものかと聞いて、修正していただくのなら良いと思います。教育長のお話では、そういう案はない、白紙だから今日の意見を十分聞いて検討していくということ。そうなりますと、今日の懇談会の位置付けですが、ただ意見だけ言いなさいというのではなくて、民意というのが大事であり、皆さんの意見は地域社会の教育に対する本当の気持ちだから、それをもとに再編整備をやりなすということでしょうか。若狭では懇談会を2回やっています。大野もやっています。入口の問題として、懇談会の位置付け、そして何回でまとめるのか、まとめは関係ないから意見だけ聞いて後は行政でやるということか、そんなことを最初にお聞きしたいと思なす。

広部教育長

ただいまの御意見であります。最初に説明を申し上げましたように、各ブロックでそれぞれ抱えている問題が違なす。最初に奥越に入りましたのは、一刻も猶予ができないくらいに生徒数が減っているという現状があるから。これは、奥越の地区の皆さん御自信がよくお分かりになつていてということ。で、そんなに混乱もなく、こういった実施計画が定まったわけ。ただ、今おっしゃったように、二州地区の再編についての原案を持ってれば、今御説明申し上げるわけ。ですが、そうしたものは持ってありません。まずは、ここに住んでいらっしゃる各界、各層の代表の皆様方の御意見なり考え方を承つて、それから組み立てていこうということ。です。

中西会長

今、説明をいろいろ聞かせていただきましたが、現在の日本の情勢、少子化

の流れの中で、学校運営の効率化等、子どもの教育のためなど、いろいろな条件のもとに再編整備計画を立てておられ、推進されていることは理解できるのですが、まず、奥越地区の再編整備の結果が出ていない中で、その他の地区でもとんとんと進めていく中で、再編後の問題点、危惧されることは何もないのでしょうか。失礼な言い方ですが、例えば、一つの地区で再編して失敗したとか、大きな問題が出たとか、そんなことは前提に考えておられないのかということをお聞きしたいと思います。

また、各学校において、長い歴史の中で学校運営が進められてきています。今の時期、少子化ということで仕方ないかも知れませんが、再編整備計画が策定された中で、県教育委員会のお考えは重々分かるのですが、学校の再編に伴いまして、デメリットやメリットなども皆さんに示してもらわないと、スムーズに進まないのではないかと思います。

広部教育長

それぞれの高等学校には、歴史、伝統といったものがあるわけです。一方、全国で少子化が進むというのは分かっています。これまで高校の再編整備を行っていないのは本県と滋賀県だけでしたが、現在は2県ともスタートしたわけです。

なぜ再編整備が必要かということ、最初に申し上げましたように、少子化というのがひとつの大きな理由です。次に、職業系専門学科の強化をしようといったことを併せて考えており、今、奥越をモデルとして取り組んでいます。こういった全体での議論の他に、各高等学校のPTA、同窓会、地区の企業の方、中学校長など、いろんな方に集まっていただいて、それぞれの高等学校に課題や今後の方向性について検討しています。全て透明な形で進めておりまして、奥越の場合は良い方向に行くのではないかと思います。

中西会長

ただ、計画期間が案として出ていますので、こうした会が、2回、3回目と段階を踏んでいく中で、学校での再編に伴う学校で、メリットとデメリットがどこにあるかを教えていただきたいのと、教育面は素人なのでよく分かりませんが、委員会自体も再編の成果はまだ見えないところでしょう。そういう中で、次にとんとんといった場合に、後々の問題点が何もないと判断されておられるのでしょうか。

広部教育長

私ども、とんとんと行くということは想定していません。まず、どういったところに学校毎の課題があるのか、同窓会、PTAなどの方々に、十分お互いに理解できるまで議論していただきたいと思います。例えば敦賀工業なら敦賀工業のこういうところに問題がある、それではどうしたら良いか、こうしたことをみんなで議論して良い方向に持っていこうということです。

橋本会長

二州、若狭地区から嶺北へ中学生が進学する率が高いという傾向があるという問題ですが、一人の親として考えてみると、家庭や親には、嶺北が魅力的に見えるのです。それで、子どもに嶺北の高校へ進学を薦める、魅力があると感じるわけです。嶺南地区の中学、高校に魅力を感じてもらうための努力はしてこなかったように思います。今これからやるべきことは、中学と高校がいろんな面で連携して、地域が何を望んでいるかということも探っていないと、嶺北へ流れるという傾向は直らないと思います。それとリンクしてこの高校の再編を考えて欲しいと思います。

地元で育った子が地元の高校を目指すということになれば、先ほどの統計の数字の見方も少し変わってくると思います。また、職業系の高校を目指す子や

社会が何を本当に望んでいるのか、本当に望んでいる姿を職業系高校がわかっているらっしゃるか、こうしたことも産業界ともっと意見を交わす必要があると思います。即戦力となりうるべき社会人を養成する場所なんだ、職業系高校の価値はそこにあるというようなことです。嶺南の職業系高校の再編のことも、その動きと絡めていかないと、県が描いた形をそのまま持ってきても、地域はそう考えていないということになってしまうので、もっと地域の産業界の方、地域の市民、中学、高校と、もっと密に中身を練り上げていく必要があると思います。

また、ここに集まった人たちの考えと、市民が考えていることとは、ずれが生じると思いますので、地域の人はどう考えているのかを聞く場を設ける必要があると思います。

二州地区から県外の大学に進学する率が高いというお話がありました。大きい目でみたら、大きく育つためには、福井県から出て教育を受けてみることも大切だと思います。関東の大学に行かれる人たちがいますが、そこで自分なりに考えて、関東に居つのか、地元に戻るのかは判断できるのではないかと思います。こちらの大学を出て関東地区に就職したいと思ってもなかなか難しいが、逆は可能であると聞いたことがあります。やはり、親としては、子どもたちには大きい夢と目標を持ってもらいたいと思います。ですから、県外の大学を目指すことが悪いとは考えておりません。

広部教育長

私どもも、県外の大学を目指すことが悪いとは言っておりません。やはり、高校を出たら、大きな夢を持って、大きな世界へ行期待という希望は当然あります。子どもたちに夢を持っていただくのは非常に良いことだと思います。

室副会頭

よく嶺南の方は嶺北に対して批判をしますが、私は違うと思います。滋賀県と福井県だけが高校再編をやっていないという、遅れている状態の中で、奥越の再編が始まりました。総論的な話は良いと思いますが、やはり時代の流れに乗るという意味では、ここに出ている人の意見でまとめたら一般市民は反対かも知れないということを書いていたらまとまりません。やはり選ばれた以上は責任を持って、私は敦賀高校をこうしたい、敦賀工業高校をこうしたいと、そういう意見を言って、ここで素案を作るべきではないかと思えます。ここに出ている人は力もないし、案をつくってもというようなことは言わず、選ばれたという誇りを持って、市民として、県民として意見を堂々と言うべきだと思います。ここで二州地区の再編に対する意見をきちんとまとめよう、こういう機運がなければならないと思います。

私は都市計画やまちづくり審議会の委員もやりましたが、とにかく、何かやろうとすると足を引っ張られるのです。そういうことでは駄目だと思います。せつかくこういう機会を与えられたというプライドを持って、何とか教育を良い方にやろう、今日お見えの方々はそういう気持ちで前向きにやってもらわないと遅れます。この地区はお金はあるから、自分のやり方でやるんだということではないのです。県益にプラスになるようなことをやらねばならないと思います。

朝、駅に行くと、敦賀から福井の高校に通う生徒を多く見かけます。敦賀に高校がありながら、なぜ福井の高校に行かなければならないのか。そういうことを見ていると、なんとしても再編整備の中で、考えていく必要があると思います。

私は就職指導員をやっており、若狭高校や敦賀高校も行きましたが、普通科は何か遠慮している。就職説明に参加するのはほとんど商業科の女子生徒です。

担当の先生に男子生徒はいないのですかと聞きますと、親御さんから何でもいから大学だけやらせてくださいと言われるということです。私は、普通科と商業科を分けて、商業科は産業の位置に置いて、普通科は普通科とする。そして、若狭、敦賀両高校が難関大学に合格者を多数出すような、そういう学校にしなければならないと思います。学校の先生もほとんど嶺北の方です。

私は、こういう機会に、明日の敦賀の教育レベルを上げるために、真剣に取り組まなければならないと思います。確かに、いい大学に入ることが教育ではありません。しかし、子どもから見たら魅力的に見えるのです。学校に魅力があれば福井へ行かないのです。そういう意味で、何とか本気になって、機会を与えられてこの会議に参加しているのですから、奥越に負けず、二州でなんとか計画を立てて、教育長これをお願いしますと、そういう意気込みを持たなければならないと思います。

今日は原電さんもおられますが、まず、工業高校に原子力の学科を作ってほしいと思います。私は、若狭湾エネルギー研究センターの事業計画策定委員です。昨日、集まったときに福井大学の先生方とこの話をしました。工業高校のレベルで、原子力の勉強はレベルが高くてできないのかと聞くと、できますと言われました。工業高校の生徒でも、十分原子力のことは勉強できますと、委員の先生方がおっしゃっていました。

2つめは敦賀高校の商業科で外国語を学べるようにしていただきたいと思います。ロシア語、中国語、韓国語などです。今年はAPECの会議があります。敦賀港は国際港でございますので、まずみんな英語は勉強していますが、ロシア語、中国語、韓国語を選択制で勉強できるようにする、そうすれば武生や鯖江からでも生徒が来るのではないかと。将来、例えば外国で災害の支援部隊に入りたいなど、そういう素晴らしい目標があるときに、どこに進学すればいいのか考えると、敦賀高校ではロシア語が勉強できる。そうすると、敦賀から福井へ行くのではなくて、福井から敦賀へ生徒が来る。そうしたことを提案します。

また、できましたら、美方の普通科と敦賀の普通科、そして工業、商業、家庭科をひとつのグループにして、再編整備したらどうかというのが私の持論でございます。以上です。

広部教育長

ありがとうございます。先ほど御指摘がありました。市民、県民の皆さんの意見をお聞きすることについては、また別の方法で、例えばパブリックコメント等いろいろ決められた手続きがありますので、成案ができましたら、そういった手法も使って、十分御意見を承る機会をもってまいりたいと思います。

高岸専務理事

私も敦賀高校を卒業して地元にいるのですが、今日の各高校の説明を聞きますと、もう一度勉強したいなと気持ちになっています。やはり、私たちの職場でも、せっかく入ってくれても途中で挫折する人がいるのです。多分、進学でも希望どおりにならず、就職しても仕事が合わなくて辞めて戻ってくると、そういう方もおられると思います。

また、高校の統廃合を進めていけば、将来的には施設を縮小しなければならないのか、そういう空いた施設を使って、先生方にも協力していただいて、生徒の再教育というか、そういうことを県の教育機関として何かやっていただけないかなと思います。個人的な要望ですが、そういう方法もあるのではないかと思いますので、お気を留めていただければありがたいと思います。

浜野会長

今日、いろいろご説明いただきましてどうもありがとうございました。私も初めて聞くことばかりなので、ピン트가ずれている質問になるかもしれません

が、お許してください。

再編の基本方針で、総合産業高校の設置や総合選択制の導入については、こういうふうに進んでいくと思います。今後は、この二州地区でどういう総合産業高校を作るのかという絵を描いていくのかなと自分なりに理解しました。再編のやり方として、他になかったのか、何か他にも案があったかどうかをお聞きしたいと思います。

それと、教育長がおっしゃった、再編の痛みとはどういうことなのか、具体的に何があるのかお聞きしたいと思います。

広部教育長

最初に申し上げたように、二州地区の方向性がこうだということは申し上げておりませんので、皆さん方の御意見を伺う中で模索してまいりたいというスタンスです。それは誤解いただかないようお願いしたいと思います。

それから、痛みと申しますのは、奥越の例をとってみますと、高等学校ごとの協議を進めていく中で、勝山南高等学校の生徒の減少の幅が大きくて、統合されるわけです。高校がなくなるわけですが、同窓生もおられます。それから大野東高校を母体にして総合産業高校を立ち上げるわけですが、立ち上げる際には、校名をどうするかも考えなければならない。それが非常に同窓会の皆さん方にとってはなかなかつらいとことがあります。要するに、同窓会であれば、御自分の卒業された学校がこういう形になるのは嫌だ、少し悲しいなど、そういったことを申し上げたわけです。

浜野会長

この基本方針にあります総合産業高校の設置というのは、二州地区に関してはまだこれからということで、現段階では白紙ということではよろしいのでしょうか。

広部教育長

各地区の特性、考え方がございます。そういった中でまとめていきたいというわけございまして、二州地区についてはどういった方向性がベストなのかをこれから模索していきたいと考えております。

加藤本部長

先ほどから、地元の会社のニーズとか、我々企業が求めている人材、特に高校の卒業生というお話が出ています。最近の採用実績をみますと、工業高校さんからは毎年4～5名の生徒さんに来ていただいています。さらに敦賀高校さんからも来ていただいている。最近、非常に成績が優秀な方に来ていただいています。特に最近の高校の傾向なのかもしれませんが、資格取得を高校時代にチャレンジして、非常に意欲を持って高校時代に勉強して就職される方が目立ちます。一人で、10個ぐらいの資格をとって入ってこられる方がいらっしゃいます。技術的な資格だけでなく、ワープロの実務ですとか、いわゆるITの技術情報管理ですとか、それから外国の話がありましたけれども、英検ですとか、こういった資格を学校時代に自分でチャレンジして入ってきている方が非常に目立ちます。特に工業高校さんから入って来ていただいている方は、高校を選ぶときに、自分はできれば原子力関連で働きたいのだという気持ちを持っていらっしゃる方が多いように見えています。これは、面接の担当から聞いたのですが、高校を選ぶときに自分はこういう所に行って仕事をしたいんだという傾向が強く目立っていると聞いております。

再編そのものについては、私は意見を申し上げる立場ではないのですが、「生徒さんの多様なニーズに応える」というキーワードがありましたが、生徒さんはいろんなことをやりたい、やってみたいという気持ち、それをちゃんと受けていこうという再編は、非常に賛成でございます。企業に入ってからその気持

ちを持って、自分は会社に入っただけでこういうことをやるのだというチャレンジ精神、先ほど総合選択制の説明もございましたが、高校の中でそういう気持ちをどんどん伸ばしてあげるとというのが、個人的にも賛成でございます。こうしたことは、企業に入ってから自分が仕事をやっていくんだという気持ちにつながってまいりますので、是非とも、こういうところは生徒さんのチャレンジ精神を伸ばすためには良いのではないかと思います。

それから、実際に敦賀高校の普通科から県外の大学に行って地元に戻ってきているかどうかということですが、私の会社の事例を申し上げますと、敦賀高校を卒業されて県外の大学に行かれて、今、地元の敦賀発電所で働いている管理職が相当数多くなってきております。今の発電所のトップや二番目の者ですとか、みんな敦賀高校出身でございます。その者たちと話をすると、県外の大学に行って原電へ入ったけれど、何故入ったかという、やはり将来的には地元の企業へ、皆さん長男の方が多いのですけれど、地元就職先があるから地元に戻って仕事をしたいという気持ちで、原電に戻ってくる方が多いです。我々企業としては、地元の企業の一つとして地元の方が、もちろん高校生も地元の企業として認めていただいて、あの会社に入って仕事をするために、この高校へ入ってこんなことをするんだ、普通科に行って大学に行ってまた戻ってきて仕事をするんだ、そういう気持ちを育むためには、普通科や工業系学科の特徴を出すというのは、非常に私は賛成でございます。

先ほど、原子力の学科を是非作って欲しいという御意見がありました。我々の立場から申しますと、決して原子力科だけで発電所は成り立ってなくて、電気科、機械科いろんな専門の人間が集まって、発電所が成り立っています。全体で言いますと社員が400名、協力会社さんを入れますと、1,500名近くが常時発電所で働いており、その人たちの7割強が地元福井県出身者で占めています。我々もどんどん企業の魅力を作らなければいけない。それと同時に、生徒さんも高校を選ぶときからそういう気持ちを持っていただいているという、繰り返しになりますけれど、それが最近の傾向でございますので、是非とも生徒さんのやる気を起こさせるような学科なり、教科の設定には賛成でございます。

私は嶺北の高校卒業でございます。私の時代はまだ北陸トンネルがまだなく、できるかできないかという時代であり、嶺北と嶺南の壁が非常に厚かったです。最近では、私どもの社員の子どもの話を聞きますと、決して嶺北に流れるというだけではなく、親が嶺北に行けということではなくて、子どもが何をやりたいかというところを親が認めてあげるかどうかというところ、嶺北に子どもを出している親はそういう気持ちを持っているようです。私は嶺北出身ですから、嶺北の高校へ行くかどうかという相談を受けるのですが、嶺北の高校へ行ったからどうということではないよと、子どもさんがこれから何をやりたいか、それをやるためにはどこの高校がいいのかという、そういう選択を親としてすべきだと言っています。そういう意味で、この二州地区の高校で何をやりたいのか、それでは地元のこの高校に行けば可能性があるよという、そういう意味でいろんな可能性が広がるようなカリキュラム、学校で教えることを、再編と同時に工夫していただける良いと思います。

広部教育長

ありがとうございました。本来なら、皆さんお一人お一人からいろんな御意見を伺う予定だったのですが、今日は学校の紹介等がありましたので、また次回以降にさせていただきたいと思います。

初回からいろんな重い課題を背負ったわけですが、いろんな御意見、御提言をいただいたことを組合せ、またこれからもいろんな方々の御意見を伺いなが

ら、高等学校はひとつの文化でございますので、十分大切にしながら、なんとか良い方向へ行くように、是非ともそういった方向で、さらに御意見を承りながら方向性を出していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

#### ○ 閉 会

教育政策課長

皆様方には、貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。本日の議事録につきましては、事務局で整理した上、県の教育政策課のホームページで掲載してまいりますので、よろしく願いいたします。それでは本日の懇談会はこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

- 以 上 -